

## 講演会 全体会午前の部

**司会者：**只今より、講演会ならびに全体会午前の部を行いたいと思います。午前の部の司会を担当させていただきます、吉野中学校3年のf、吉野中学校3年のgです。よろしくお願いします。それでは早速講演会にうつりたいと思います。演題は、『「家族の絆・ふるさとへの思い」を語り合った仲間たち』です。齋藤万里愛さん、永濱圭一郎さん、坂東香連さん、どうぞよろしくお願いします。



### 《VTR上映》

**C：**はい、イスが小さいね。これ、小学生用のやつですね。ちょっとボクよう座らんわ。大きいから。みなさんおはようございます。ボクたちは応神中学校2005年度卒業生です。一人ずつ自己紹介を先にしてもらいましょうか。Aから。

**A：**はい。Aです。今、早生まれ？遅生まれ？どっちか分からんけど、2月生まれなんで、まだ21歳なんですけど、もう卒業して7年が経ちました。今は介護で仕事してます。今日、何かいいこと言えるか分らんけど、ちょっと聞いてください。よろしくお願いします。

**B：**Bと申します。2005年に卒業して、今は普通に仕事しよんですけど、今さっきV

R見て、もうすでに目頭が熱くなって。そのときの気持ちをリアルに思い出しながらおったんですけど、ちょっとこの熱くなった思いを、短い時間で語れたらいいなと思います。よろしくお願いします。

**C：**はい、ありがとうございます。最後になりましたが、ボクは同じく卒業生のCです。昔から、中学生のときから「おっさんぼい」って言われて、同級生に見られないんですけど、同級生です。僕はまだ就職してなくて大学生、徳島大学の大学生です。よろしくお願いします。それでは早速ですけど、しゃべりますか。VTRを見て。たぶんこの二人も、ボクも含めて、あのVTRを見るのはとても久しぶりでした。ボクが中3のときにあったことですね。何か思ったことがありますか。



**B：**講師みたいなえらそうなもんじゃないんですけど、中学生って、なかなかあんまり親密な話はできんかな。仲いい子らだけでしかできんかなって思うんやけど。さっきのVTRを見てもらったように、私らは結構真剣に語り合ってきました。それは自分から言い出したものじゃないんですけど、全部先生たちがつくってくれた環境だとか。中村先生だけには私、悩みを言えたんですよ。友達には言えんかったも。それを、「みんなの前で話してみんか」というような環境をつくってくれて。さっき結婚差別のことを言ってたのは私なんやけど、みんなの前で話しました。緊張しました。もちろん。怖かったです。人前で

部落差別って言葉を言うのを。「結婚差別を受けてます」って言うのを。でもね、言って良かったなって、今もう何年たつのかな、そう思います。やっぱりみんながいつでも気にかけてくれるんですよ。言ったその周りにおった人たちが。あれからどうだったって。さ



っきのVTRちょっとあんまり分かりづらかったと思うんやけど。私が小学生のときに、お姉ちゃんが19歳で妊娠しました。好きな人と。私らが部落出身で、「結婚しよう」ってなったんやけど、向こうの親が大反対で、「部落の血はいらん」と言われました。姉ちゃんがね。まあ小学生の私には、妊娠だとか、すごい刺激的だったんやけど。ただその姉ちゃんが私に対してすごい泣きょん初めて見て、それが今でも忘れんくらい衝撃的でした。部落ってよう分からんなって思いながら私も学習会とかに通いよって、初めて身にしみた部落差別が、やっぱりその結婚差別でした。よう分からんまま学習会行きよったんやけど、中学生になって、吉成先生とか中村先生が担任になって勉強していくようになったんやけど。やっぱりみんなもいろいろ勉強してくれよと思うんやけど、いろいろあると思う。それを一人に言うことによつてまた変わってくると思うし、周りの友達だけでも全然違うと思うし。もう姉ちゃんが30歳手前になります。29歳になるんやけど。姉ちゃんとその人とは結婚しました。彼が、「どうしても」っていうてね。5年越しかな。2

5歳って言よったけど、24歳に結婚しました。で、幸せかどうかって言われたらあれなんですけど。やっぱりね、向こうの親にも厳しい、冷たい風を今でも浴びてます。向こうは長男なんですけど。嫁に行ったんですけどね。やっぱり親戚づきあいで集まっても、姉ちゃんは障害された感じで受け取るし、姉ちゃんはそれで精神的に病気になったりしよんやけど、でも旦那が支えてなんとかいっきよるみたいやけど。子どもも生まれました。今3歳になります。今年3歳になる。何年か越しにこういう結果になったけど、実際私も22歳になるんですけど、結婚差別にこれからぶち当たっていくかもしれませぬ。やっぱり周りでもね、お母さんにも言われます。付き合う人がおったら「部落出身って言うな」とか、「応神で住んどるって言うな」とか。結構周りでもあるんですよ、そういう言葉が。それをどう考えていこうかなとか、結構Aと相談してます。会う度に結構そういう話をしよんですよ。結婚の話だとか、こういう部落があつたんやなみたいな。一緒にね、部落の地域を車で回ったりとかもしました。こういう所なんやみたいな。興味心でないんやけどね、ちょっと知りたかっただけです。きつと悩んどる子とかもいっぱいおると思うけん、それをね、共有してほしい。私がこんだけスッキリできたんは、先生のおかげでもあるし、友達のおかげでもあるけん。でなかったらたぶん私はこんな舞台には絶対立ってません。私が思うんは、今自分が何かを行動しよるかって言われたらそうじゃないんですけど、自分の日々でいっぱいなんですけど、子どもたちの未来が明るくなつたらいいなとは思いません。私が中学校のときに悩んだような気持ちを、同じような気持ちにさせたくない。みんなに。なってほしくない。「部落やけん結婚できん」だとか、「部落やけん」という言葉を使わんようなのが私の理想なんやけどね。そういうふうになっていったらいいなと思

ます。どう思いますか。

**A**：私はBみたいに、そんな格好良く言えんのやけど。何を言おうとしたんやっただけな。

**C** どう思いますか。

**C**：そこでボクに回しますか。何を言いましょうか。そうですね。ここに集まっている3人は、ハッキリ言って被差別部落の出身ですけど。差別を受けたことはあるかな。直接受けたことは。

**A**：いや、直接はないね。

**C**：最近は分かりませんよね。外見を見ても。町中でボクたちに偶然会って、「この人部落の人や」って分からないですよ。



**A**：分かったら怖いね。ドラえもんか何かついとんね、その人ね。

**C**：ドラえもんがついとるって(笑)。さっき見てもらったDVDっていうのは、毎週何曜日だったかな、木曜日だったかな。木曜日にやってた道徳の授業で、毎週しゃべってたんです。それは、人権サークルみたいなんじゃなくて、クラス全員でしゃべってました。54名だったかな。応神中学校は小さい学校で、1学年54人…今何人ぐらいかな。応神中の人いてる？ゴメンね、突然ふって。何人ですか、今。80…全校生徒80。1学年何人ぐらいですか。30人ぐらい。そうですか。少ないですね。僕ら54人だったから2クラスあったんですね。2クラスあって、片方の担任が吉成先生、あそこで聞いてくださっている吉成先生。まあ1回くらいは話題にあげと

いて。もう一人がこちらの中村先生でした。で、さっきの映像にはボクは映って、顔は写ってたかもしれんけど、しゃべってはなかったでしょ。何でかっていうと、今みたいに、ボクはあの授業でだいたい司会をやってたんですよ。こうやって。みんなが勝手にしゃべりまくるから、ちょっと交通整理をしないと難しかったんですね。それは非常にいい場だったと思います。もう本当に。みんなまったく遠慮なく、54人という小さいクラス、小さい学年だったけど。最初は遠慮がありました。ハッキリ言ってみんな、「何で人権学習」「しんだいな」っていう気分があったと思います。そうじゃないですか？初めの頃、本当に初めの頃。2年生のとき。

**A**：そうやね。えらいこと始めたなって思いましたね。まあ学習会の子と普通というか、部落でない所の子と、そういうことをしゃべるっていう機会が、大きい所ではなかったんで。学習会の子らでは、その話はしよったけど、壁がありましたよね。

**B**：触れてはいけない内容みたいな。

**A**：そうそうそうそう。

**B**：暗黙の了解みたいな。



**C**：そうですね、確かに。ここにいる人は一応人権活動に熱心な方でしょう。一応。ここに集まっている中学生の人はね。でも、みんなクラスの、こういう人の集まりじゃなくて、自分のクラスで言えるかな。ここでやるのと同じように、意見発表できるかなって考えてもら

いたいんですよ。できるようになってくれたらいいなって思いますね。実際ボクたちはできるようになってしまったんですよ、なぜか知らないけど。何ですかね。どういうきっかけがあって、自分のことしゃべろうと思いましたが。

**A:** 私ですか。私は、こういう差別を受けたとか、自分の問題だとかを人に言う人ではあんまりないので、「ここしかないな」と思いました。あの場しか言う機会はないと思ったんで、もう言えることは何でも言うところ。恥ずかしいけど、やっぱり人生って菌食いしばるぐらいのことが必要で、結構大人になっても思うんですけど。「ん！ここでやっとかな後で後悔するくらいやったら」って思って。また一人ひとりに話すんじゃなくて、全体に一気に話せる機会がどんだけ貴重かっていうことよね。ほなけんあの場所を選んで、自分の今まで言うたことなかったことっていうのを、「今しかないな」って、ホンマにほう思って、あのときにしゃべりました。ホンマみんな仲良かったよね。

**C:** 仲良かったですよ。

**A:** ほとんどみんな保育所から一緒でね。たいがいね。保育所、幼稚園から一緒やったね。

**C:** 応神小学校はみんな応神中学校にだいたい進学するんで、ずっと顔見知りなんですよ、実は。

**B:** 幼稚園、保育所、0歳の頃からエスカレーター式で上に上がっていったんやけど、ずっと顔見知り。でもやっぱりその部落のことについては、さっきも言ったけど、触れてはいけんみたいな感じで壁があったんやけど。地域の人、すごいリアルな話なんやけど、私の住んどる地区と隣の地区の子の、まあ例えばご両親、親とかが、「あの地区の子と遊ばれんよ」とか、私の耳に入ってくるんですよ。他の地区のお母さんと、その地区の子と私が遊んびよって、そんなときはすごい親同士も話すんやけど。例えば参観日とか運動会

とか、親同士が顔合わせる場面になったら、私の親とは話さないだとか、目が合っても逸らすだとか、私が見てて思ったんですよ。お母さんは言わんけどね、そういうことは。でも私はそういうのは見たくないけん、親に「参観日もう来んでいいよ」って言っても来てました。地域的なもの、結構応神が濃くて、その地域の。例えば今パツて言うたことが、1日後には全体に広まるぐらいの伝達の速さというか、地域のこう…あるんね。

**A:** そうやね。すごいよね。地域ネットワーク、おばばたちの。おばば、おじじたちの地域ネットワークの速さね。何か話題を与えてしまったら、電話の前に立って、「もうほんまに一」やいうて言よるね。何回も見たことあります。



**B:** こんなん言うたらあれなんやけど、世代交代じゃないけど、その人たちが例えば亡くなっておらんようになって、私たちの時代が築けたらいいのになとか思ってたんやけど、そういうふうになんて言われるんだったらね。でもそれだったら、たぶんまた同じこと繰り返してしまうかなって思うんですよ。何かしら根が残って。根絶やしにはできんから。そういう部落のネタを。やけん、こうやってわたしが語り合っ。地域じゃない人らがやっぱり多かったんですよ。結構多かったんやけど。けどその子らに伝えていく。で、全体学習だったんやけど。私らの学年と、あと2年生とおったんね。やっぱり緊張した

けどね、人の目も怖かったけど、でもやっぱり今となっては言って良かったなって思います。

A：そうやね。



C：ありがとうございます。さっきも言ってもらったんだけど、あんまり部落差別っていうのは身近に触れる問題じゃないですよ。「ちょっと野球しようぜ」って言うのと同じように、「ちょっと部落差別のこと話そうぜ」って言いませんよね、絶対。ただそこが一番怖い所でもあって。例えば、ここにいる人たちは部落差別の存在を知ってて、もしその問題に当たったら、ダメと言ってほしいし、言ってほしいと願います。ただ無茶はしてほしくないですね。大人10人に囲まれて、強そうな男10人に囲まれて、そういうことを否定しろって言われたら、最初は屈してしまうかもしれないかと思ってしまいますけど。ただ基本的には「おかしい」って思う心は持ってくれると思います。ただそれが最近、知らない、全然知らない人がいるんですね。部落差別のことをね。ごめんなさい、ちょっと全体学習の話とはずれますけど、部落差別の最近の傾向として。昔部落の人っていうのは、非常に本当に貧しかった。服もボロボロだったし、正直言って見た目で分かったわけです。戦後すぐとかの時代はね。それが高度経済成長っていうのがあって、みんな一応は豊かになりました。それで見た目とかは全然分からなくなったわけです。そうなるとうすね、今

度は部落差別っていう存在が忘れ去られますいったん。いったん忘れられるんですけど、その全然知らずに大人になった人が、部落の人だけ結婚しますって言ったら突然親に猛反対されて、じゃあ親がダメって言ってるんだからダメなのかなって言って、結婚やめちゃう事件とかがよくあるんですよ。そうなるとう部落の者としては非常に傷つきます。そういう問題が起こってます。ボクたちが全体学習で語っていたのは、そういう問題かな。そういう問題もありました。ただ、結構さっき見てもらったDVDでは、テーマが自由だったでしょ。なんでかっていうと、ボクはこう思ってるんだけど、まず人権学習始めるときに、生徒じゃなくて、先生が自分のことを言ってくれたんですね。中村先生とかが。まず



中村先生がおっしゃってたのは、自分のことしゃべらないと、相手も本音を打ち明けてくれないと。まったくそうだと思いますね。ボクたちは全体学習したときに、みんな初めは緊張した空気だって、ずっと無言が続いたときも、30分ぐらい無言が続いたときもあったんですけど、徐々にみんなが一人ずつ、堰を切ったように、自分のこと、自分の悩みを話すようになった。そしたら、他のクラスのみんながそれに応答して、自分を頼ってもいいですよとか言ったり、助けたり、あるいはまた、自分の秘めてた悩みを言ってくれたりしたんですね。ここまでボク長くしゃべりましたが、何かしゃべることありますか。

A：周りの差別について、おもいしろいエピソードを言いましょうか。面白くないかもしれないんですけど。私、専門学校時代に、同じ学校の子と付き合ってたんですけど、1年ぐらい。1年ちょうど来るか来んかぐらいのときに、ドライブをしょって、突然今「何が起こったん」みたいな感じにみんななっとんやけど、まあちょっと聞いてくださいね。どうでもいい話なんですけど。その彼氏とドライブをしてまして、たぶんここは部落地域だろ



うなっているところをちょうど走っていたときに、私が冗談で差別用語みたいなんを言ったんですよね。それは何でかっていうと、D町の子って言うていいのかな。D町の友達が、自分らのことを面白おかしく、悲しい感じなんやけど、そういう自分らのことを下げて言ってるみたいな言葉が思い浮かんで、ちょうどそれを言ったときに、その1年ぐらい付き合っていた彼氏が、「いやいやオレ、〇〇ちゃうし」って言うたんですよ。「えー」って思って。私のこと薄々感づかれとったんかなって思って。私ももちろん言うてないし、家にも連れてきたくなくて。でもほの「オレ、〇〇ちゃうし」って言って、「〇〇はここら辺のやつだろ」みたいな感じで言われたんですよ。「いやいやいやいや」と思って。私は正直言葉が出た瞬間、「ハッ」ってなって、「自分で言うてもうた。『お前だろ』って言われるんか」と思ったんですよ。じゃなくて、その子は何も知らないんですよ。どこが部落だ

とか、大きいところしか知らないんですよ。主に徳島で言う「ここは部落じゃ」っていうところしか知らなくて、そこしかないと思ってるんですよ。だから知らないって怖いなって思ったし、何でも言えるんですよ。知らなかったら。「ここらのやつは野良猫でも引いたらお金取られるぞ」とか、そんなこと平気で言うんですよ。「ほんなんせんし」とか思うし、ほんまに今まで人権学習とかしてきた私やけど、そう面と向かって彼氏とか仲いいとかいう…同棲もしてましたし。「毎日一緒におる相手はその言葉を言うてきたら…」っていうことがフラッシュバックしてきまして、中学校の自分と。「おっ来たぞ、これが差別じゃ」って。「来たぞ、来たぞ」と思いましたし、ここから来るかみたいな感じではありましたね。社会に出て、職場の人に言われるんかなって思ったんですけど、ほれより身近な彼氏からドスンて来られたんで、この人はたぶんこういう私らが受けた学習を受けてないんだろうなって思いました。簡単にこの言葉を、私らみたいな差別を受ける立場の人が言うんでなくて、「もしかしてキミもそうじゃないの」って言ってると思ったし、まあそれを知らないから言えるんですよ。C。知らないのは怖いね。今まで自分のこと知ってもらってたつもりでも、何も分かってもらえてなかったんやなって、よく分かりました。



C：うん。でも、知らないときに、知らない人を果たして責めていいのかってことは、ちょ

っとボクは考えたい。

**A**：そうやね、個人が悪いんじゃないかもしれんね。

**C**：うん。はっきりその部落のことを全然知識が不足していたのは、その人がそういう知識に出会わなかったんでしょうけど。例えばその〇〇という言葉も、悪意なく、悪びれなく使う人も最近いますね。意味が分かってないんですよ。バカとかアホとか、そういう類の言葉だと思って、気軽に使ってる人もいます。そういう場面に出くわしたときに、自分がどうするか。そういうこと。あるいはこういう発言をする人がいなくなるように、自分はどうすればいいかっていうのは、ボクたちも一生懸命考えましたし、みなさんにも午後から討論があるんですから、じっくり考えてもらいたいと思います。それでですね、もう時間があと8分ぐらいしかないの、どうしましょうか。さっき見てもらった映像は、3年生の時の、ボクたちが中学3年生の時の映像ですけど、3年生の時に活動したことを、この分厚い本があるんですけど、この(手元にある本を持って)「マイスカイ」って言って。「マイスカイ」っていうのは、ボクたちが中学3年生の時に先生が書いてた学年だより、1週間の行事とか書いてるやつですね。これ毎週、A4の紙に裏表、時には2枚ぐらい。いったいいつ先生としての本当の仕事してたんだろうかっていうぐらい、ものすごい多い分量で書いてもらって。他にも、さっきの映像でやってた全体学習のテープ起こしですね。しゃべってた文を全部書いてもらってます。本当にすごいと思いますね、これは。いったい何時間かかったんですか。1ヶ月ぐらい、趣味だそうです。

**A**：えらい趣味ですなあ。

**C**：本当にすごいと思います。それを伝えたかったのと…。

**A**：成人式、面白かったねえ。

**C**：成人式、面白かったですか。ボクが言った

ら自慢になるから、どちらか…。

**A**：応神中学校では、卒業式に一人ひとり、自分のコメントを、今までの中学生生活どうだったか、これからどうであるかっていうことを一人ひとり言いました。

**C**：昨日のリハーサルで紹介用に見てもらった



ん違うかな。

**A**：見てもらったんですかね。言うたんですけど、この言葉がマイスカイに全員分載ってます。それを成人式の時にCくんが、こういう前に立ってしゃべる役みたいなのが当たってたんですよ。

**C**：成人式のスピーチっていうのがあって。

**A**：急に「マイスカイ」を取り出して、卒業のコメントを一人ずつ言うていったんですよ。もうあ然としたな。会場がざわついたな、あのときは。ザワザワザワザワってなったな。ほんま、何しよんCて思ってた。



**B**：私も舞台におったんやけど、ちょっとビックリした。司会しよった地域の方が、もう時

間押しとんですけど、みたいな雰囲気になっても、地域の人とかがね、Aのおばあちゃんとかが、「いいでえ、Cくんが言よんのに」みたいな。で、読んだんね。

C：はい。もうあのときは、無茶だということは自分でも分かってましたけど。スピーチに上がったのが4人ぐらいだった。何でオレだけそんなに前で恥ずかしい思いせなアカンのかと思って、せっかくやから、みんなが中学の時のこと言おうと思って。そんなときに、みんな二十歳でしたから、中学校の時のことはかなり懐かしい思い出となっていて、言われたら恥ずかしくなってるわけですよ。小学生の時のこと言われたら恥ずかしいでしょ。同じようなことで。それでまあ恥をかかせてあげようと思って。途中で止められるかなとも思ったんですけど、結構司会の人から怒られちゃったんですけど。

A：怒られよったな。

C：けどね、保護者の方がね、応援してくれて。もう拍手までしてくれて。そのとき思ったのは、やっぱり頑張ってるやると、どこかで、どこかで自分に還ってくる。自分に何かありがたいことが起こるなと思いました。一生懸命やるとね。

A：ほんま、その通りやな。



C：今成果が出てなかったも、今話し合いして、自分が進歩してないなと思ったとしても、必ず未来に出てくると思います。本当に5年後が10年後か30年後かわかりませんが。

30年後何歳や。50歳か。

A：ええ歳なつとんなあ。

C：それぐらい未来のこと考えて是非しゃべってもらいたいと思います。あと5分になりましたけど、しゃべるなら今のうちですよ。

A：もう7年経って今だから言えるけど、ほんま若いって素晴らしいなって思うし、若いときにしかできんこと、やとつたら良かったのって思うことがあるんだったら、今やってほしいなって思うし。若いときにしかできんこと、やとつたら良かったのって思うことがあるんだったら今やってほしいなって思うし。今言いたいことがあるんだったら、



絶対言うた方がいい。だって、今は今しかないし、今日やって今日しかないし、明日やって明日しかない。周りで交通事故とかようけ起きて、若い子でも私らぐらいの歳でも関係なくすぐ命ってなくなっていくけど、ほんまにそれが明日かもしれん。だけん、ほんまにこれは年下の子とかにも言よんやけど。ほんまにアホやって思うかもしれんけど、私らを見て。けど、これがほんまやと思う。今21・2歳の、今しかできんことは、ほんまにあると思うけん、もう下ばかり見てるんじゃなくて、恥ずかしいと思うけど、前見て踏ん張ったらすごいいいこと起きると思うけん、若いうちにやれることはやとつてほしい。もうほんまに思うよな。あのとき言うとならこんなに傷つけてなかったかもしれんとか、あのとき言えてなかったらこの関係はな

かったなとか、ほんまにあるんですよ。大人になって思うんですけど。言葉で人を傷つけることもできるし、人を幸せとか幸福に導いていけることもできると思うんです。だけん、ほんまに輝かしいね、キラキラしとんやけど、みんな一日一日を大切に生きてください。もうほれしか言えんね。格好悪いけど、こんなことしか言えんけど、ほんまにほれは思うんですよ。この歳になったら分かります。思わんで？

**B**：思うよ。例えば応神は小っちゃい学校だったんやけど、みんなもう何倍も大きい学校やけん、また私とは全然違う環境やと思うんやけど。小学校6年間、中学校3年間、高校も3年間を、当たり障りなくエスカレーターのような、入れ替えみたいな感じで過ごすんは絶対もったいない。今隣におる人が将来ずっとパートナーじゃないけど、やっぱり中学校の環境があったけん私今、この友達との関係があるんですよ。また高校行って新しい友達できたらええわとか、クラス替わったけん、次のクラスの子と友達になったらええわみたいな使い捨て感覚じゃなくて、もっと隣におる人のことを見てみても、すごく楽しいと思うし、面白いと思う。自分のことを言ってみて分かってくれる人が、実はケンカしとった子かもしれんし、実は絶交しとった子かもしれんぐらい、どうなるか分からんから、ほんまに今のうちに言いたいこととか、聞きたいこととか、もっと隣におる人を知ってみても楽しいんじゃないかなと思います。私はその全体学習、最初は何もしゃべらんような学習だったんやけど。みんな緊張するしね。でも、「この人こんなこと考えとんや」と知ることでもできるし、私がこうやって言ったことに対して、例えば「マイスカイ」にも書いとんやけど、みんなも書いてくれとんですよ。生活ノートっていう先生との交換日記みたいなんに、みんなの気持ちを書いてくれとんですよ。「あ、Bはこんなこと考えとったんやな」

みたいな。「Bはこんないつも元気なのに、こんなん知らんかった」とか。そういう関係をつくっていったら、楽じゃないけど、幸せやなって思う。ほんまに。今の私、すごく救われてます。この先生のつながりにも、地元のつながりにも。部落やけんてふさぎこんどったって、何にもならんし。こうやって胸を張って言えるように、みんなにもなっていつてもらえたらなって思います。



**C**：ありがとうございます。50分ぐらいの短い間でしたけど、とにかく今を一生懸命やってもらいたい。そういう締めでいいですか。

**A**：もうその一言やね。

**C**：中学生の時一生懸命やったから、ボクたちこうやってるわけで、今も一生懸命。

**A**：今になって分かりますね。

**C**：伝わったかどうか分かりませんが、とにかく今を一生懸命やってほしいと思います。それでは、とりあえず講演は一旦終わらせてもらいたいと思います。どうもお聴きくださいましてありがとうございました。

**A・B**：ありがとうございました。

**司会者**：講演どうもありがとうございました。

それでは残りの時間、講演の感想や質問、意見交換を行っていきたいと思います。マイク係として、板野中学校1年のh、藍住中学校2年のiさん、そして藍住中学校2年のjさんの3人がフロアを回ります。記録の関係上、

発表者は団体名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願ひします。前の男子2人から順番に発表してってください。もう一度挙手してください。



**名和中学校 k**：結婚差別のことについては1回学習しているので、よく分かりました。やっぱり部落ということだけで、差別で小さい命がなくなるということはとても辛いことなので、よく分かりました。

**名和中学校 l**：この話を聞いて、これすごいなと思ったことは、Cさんが振ったら、Aさん、Bさんがすぐ返答していたので、それだけ内容の濃い人権学習をしていたのかなと思いました。あと、Cさんを見たときは、正直まあ40歳ぐらいのおっさんかと思ったけど、なかなか話の滑り具合が面白くて良かったです。終わります。

**C**：ありがとうございます。

**名和中学校 m**：私は、みなさんの話を聞いて、今日を一生懸命悔いのないように生きようと思いました。

**中山中学校 n**：私は小説とかでたいてい人権のヒントとかを得たりするんですけど、そんなかのセリフとかで、「一人ひとりの時間はとても貴重。立ち止まっていたはもったいも

のですね」っていうセリフがあるんですけど、今回の講演を聴いて、とてもよくそう思いました。立ち止まるよりも、とにかく進んでいった方が何とかなるんじゃないかなって思いました。

**屋島中学校 o**：今日は講演ありがとうございました。部落差別という言葉は、学校の授業とかでよく聞くんですけども、まだそれがどれだけ受ける人が悲しいんだとか、そういうことはまだこの講演を聴くまでは分かってなかったような気がします。今日はみなさんの話を聞いて、受ける人、またその部落差別をする人も悲しいなと僕は感じました。これから僕らが未来をつくっていくので、部落差別のない未来を僕たちがつくっていったらいいなと強く思いました。また僕の学校でも、みなさんが中学校の頃にしていたような全体学習をしていて、最近ではみんな自分のそういう思いとかを積極的に伝えられるようになったけど、まだやっぱり出し切れてないところがあると思うので、今度の学習の時は、前のビデオを目標にして、みんなで心を通い合わせられるようになったらいいなと思いました。



**C**：ありがとうございます。本当に素晴らしい意見ももらって、ボクたちも非常に講演して良かったなと思っています。ただ時間がないので、なるべく中学生のみなさんの声を聞きたい。一人ひとり返答することができなくて

ごめんなさい。もし言いたいことがあったら、今のうちですよ、本当に。特に県外から来る人もいますからね。帰っちゃたら二度と会えない可能性が高いですよ。こういう出会いが本当に大事なんですよ。

**高浦中学校 p**：最初はすごく深い話だったけど、途中からちょっと面白い話もしてくれて、その中での、「今日は今日しかない」という言葉がすごく印象に残りました。

**大山中学校 q**：ボクは今日の講演を聴いて、部落という言葉を知っている人よりも、部落という言葉を知らない人の方が怖いと思いました。訳は、部落という言葉を知ってる人は怖いですが、知らない人は意味も分からずにいろいろ言いますので、そういうことは怖いなど、今日あらためて知りました。



**高浦中学校 r**：ボクは部落差別という言葉も聞いても、あまりピンときませんでした。今回話を聞いて、少し分かったような気がします。

**高浦中学校 s**：自分は今まで部落差別という言葉も聞いても、何も知らなかったんで、いけないことぐらいしか思わなかったし、正直ヒトゴトのように思っていました。けど今日の講演を聴いて、意外に自分の身近にあるってことも分かったし、もっと部落差別のことについて勉強していきたいなと思いま

した。ありがとうございました。

**大麻中学校 t**：講演して下さった中に、木曜日の道徳の時間にみんなで話し合ってたってあるんですけど、それは何ですか。

**C**：何ですか、先生。それはですね、集まっていたんですけど、実をいうと、ボクたちも何で集まっていたのかよく分かってなかったんですよ。1回くらいは先生に話してもらいましょう。



**中村(国府中教諭)**：失礼します。何でこんな所に一人だけ、ちょっと年の離れた人が座っているかと思って不思議にずっと思われてたんじゃないかと思うんですけど。道徳の授業ね、私も正直に言えば、実は応神中学校に行くまで人権学習、人権教育ってね、全然分らんかったんですよ。キミたちが1年生の時に私は学校にいないで、2年生の時に担任になったんですけど、そのときにね、クラスで2クラス、そのときは2A、2Bっていったよね。2A、2Bでバラバラにしてたんだけど、隣が吉成先生でしょ。めっちゃプレッシャーなんですよ。何やってるか分かんないから。そんなときにね、自分もすごく焦っていたし、何を教えていいのかわかんないから。例えば、こうやってBさんが初めて問題を私に打ち明けてくれたときにね、何やっていいかわかんなかったんですよ。正直な話。聞くだけで精一杯で、何て返してあげたらいいかわかんなかった。すごく困っ

たし、自分の力のなさに情けないというかね。一緒に勉強するというよりは、私が自分が力つけないかなくなって思ったし、そんな時にやっぱり隣にいてくれた先生とか、2Aの子、2Bの子、みんなで一緒に話し合いして、クラスは違ってたって、結局応神の同じ仲間、隠すこととか、こんな小さい学校でお互いのこと知らないなんていうことも、すごく寂しいことやし。みんなのことをね、みんなで共有するっていうことがね、一番このクラス、この学年の中で幸せなことなんかになって思ったときに、時間割ってね、クラスバラバラでしょ。一緒になる時間割っていうのがね、道德とか学活とかしかなかったんですよ。週に3回ぐらい同じ時間にあいてるっていうね。担任の先生のクラス、担任の先生の授業っていうのを狙って、合同学習っていうのを始めたかな。2年生の時はね、さほどそんなに回数はなかったんですよ。1ヶ月に1回とかね。



だけど、3年生になったら、毎週やってた。でも立たせてもらって話しよるけん言うけど、よう泣いたね、Aはね。みんな気づいてる。さっき見てもらった画面でずっと泣いてるのはこの人よ。ずっと泣いてるの。ずっと泣いてるんだけど、泣きながらずっとしゃべるの。すごいなと思ったのよ。自分の家のことをああやって泣きもってでも、みんなの前でずっとしゃべり続けるっていうこの子のパワーにもすごく勇気をもらったし、CくんやBさんがね、今初めて聞いた話もあるのよ。

この中にもね。本当にね、真剣に自分のこととかを話してくれるし、私の話も聞いてくれるし、周りの子たちのことも本当に真剣に考えてくれる。こんな関係があったから、今さっきの、Aのしんどかった話も聞いたけど、あれもたぶん、その後すぐぐらいいここは話をしてるのよ。たぶんすぐに話してるのよ。ご飯食べに行ったときに、私も話を確か聞いたと思うのよ。ずっとつながってるのよ。中学校卒業した後も。そういう関係をもたらえたあの授業が、私にとってはすごい宝物やし、今でもずっと自分の胸の中に残ってる。本当に幸せやったね。幸せな学校でした。すいません。こんな言葉で返事に替わるかどうか分からんけれど。中学生のみなさん、もっとしゃべってね。

司会者：ありがとうございました。



国府中学校 u：私のクラスでは、人権学習というのをあんまりしていない気がします。私自身、人権についてもっとたくさんのことを学びたいと思うし、知りたいと思うけど、人権学習をしないから、できないから、この集会に来ていて。クラスで人権について話すっていても、知っていることはあるけれど、自分のクラスでは話せないんですよ。やっぱりどうやってしたら話すことってできますか。



**B**：中村先生がおるよ。私もね、ほんまに言いづらかったけど。ずっと一緒にいるけど、この話は言えんみたいな、さっきも言ったけど。でも背中を押してくれたんよね。国府中学校よね。

**A**：今クラスで話すって言よかったけど、やっぱり最初に地盤づくりっていうか、人と人と、クラスの子とつながるっていうことが大切であって、最初にバンツて暗い話っていうんを出してしまったら、つながってないのにバンツて出してしまったら、暗いとか。もちろん若いけんきつかもしれんけど、そうなるから、まずは隣の人とでもいいから、人間関係をつくってから、「この人だったら言える」って思ったら言ったらいいし、「言いたくないな」と思ったら、自分が傷つくくらいなら言わなくてもいいと思う。だから、「言えるな」という人には絶対に言った方がいいと思う。その人はたぶんあなたのことを分かってくれると思います。

**C**：やっぱりまずは信頼できる友達を見つけてほしいですね。Bさんの場合は中村先生だったりしたわけですけど。それはもちろん、中村先生は100人もいませんしね。全部の中学校にいる訳じゃないんで、身近に見つけてほしい。それは先生でもいいし、生徒でもいいし、あるいは家族でもいいと思います。とにかく自分の話を聞いてくれる人、真剣に聞

いてくれる人を見つけてほしい。そうしてるうちに、逆に、どうやって話したら相手が自分のことを聞いてくれるのかっていうのも、だんだん分かるようになってと思います。単にその人と親交を深めるっていうだけでなく、他の人に対しても、どうやって話を聞いてもらえるのかっていうのがだんだん分かるようになってくるとと思います。



**藍住中学校 v**：学校での道徳の時間とかに、さっきみたいに一人ひとりが意見を言ったりする授業の映像とかを見せてもらうことがあるけど、やっぱりみんな真剣に自分のことを話して、周りの人も真剣に聞いているのがいつも羨ましいなって思います。私のクラスで道徳をしても、先生が一人ですっつとしゃべる感じになるので、みんなで意見を言える道徳の授業がすごいなと思いました。

**大麻中学校 d**：ボクはすぐそこに住んどんやけど、ボクの地域も昔部落って言われとったんやけど、今考えてみたら、オレももし結婚するとしたら、部落やけんていうて差別されるかもしれんけど。ボクが一番思っとうことを言うとしたら、もしその人と結婚して、自分の子どもができたとして、その子どもがもしも他の国の人と結婚するとなって、そのときにボクは、ゾツとするなって、ちょっと今気持ちあるんやけど。そういう差別のような気持ち、こういう気持ちをなくしていけるよ

うに強くなっていきたいなど、今日の講演聴いて思いました。

**司会者**：感想や質問の時間は、12時ぐらいまでを予定しています。

**吉成(城西中教諭)**：ありがとうございます。ちょっと時間をいただいております。今、言ってくれたんだけど、人間関係を断ち切っていくのが差別でありいじめなんだと思うんですよ。逆にそれを繋いでいくのが、人権であり、人権学習だと思うんです。繋いでいく学習をしたかったんですよ。当時もそうだし、今もそうだし。それは、ちょっと話が飛ぶんだけど、みんなが将来5年後、10年後、20年後、将来大人になったときに、「当時の連中で集まろうやないか」って言って、一人も漏れることなく同窓会ができる関係を、今つくっておきたいなと思うんです。一人も漏れることなくね。もしかしたら、いろんな都合があって来れない人はおると思うんです。だけど、そんなのは抜きにして、例えばいやらしい関係があったまま卒業してね、果たして5年後、10年後、20年後に、「同窓会しよう、じゃあアイツ呼ぶんどうする？」ってなって、呼ばない、呼ばれないって、何か嫌じゃない。と思わん？だから、今ある関係性をいいものにしておきたいなというのがあるんです。いじめや部落差別や差別がありまくりの中で、そのことについてきっちり整理整頓しないまま卒業しちゃったらね、もしかしたら将来、気持ちよく寄り集まることができないかもしれないじゃん。そういうのは嫌だったのよ。だから、今できることは今、目の前で勝負することしかできないわけだから、卒業したあと勝負はできないわけだから、今中学2年生は2年生の時、中学3年生は3年生の時、そのときをしっかりと勝負しておきたいなって思ってたんです。その一方でね、その関係性を断ち切る勢力もあ

るわけなのよね。勢力っていうか、それはもしかしたらみなさんの中に大きいかも小さいかもしれないけど、それはあるのかもしれないのやけども。断ち切っていくような醜さとかも持ち合わせてるんじゃないかなと思うんですよ。今、前で〇〇っていう言葉が出てき



ました。このことについてはきっちりみなさんに理解をしておいてほしいなと思うんです。詳しくは無理なんだけど、それでも、今ここに参加している160から80人のみなさんがきっちり理解をして、会場を後にしてほしいなと思うんです。前に、水平社宣言の作品が掲示されています。おそらくは地元のみなさんが、大麻中学校学習会って書いてありますから、おそらくは大麻中学校の学習会のみなさんがつくってくださったものなんだと思うんです。中学1年生の人は知らないかな。2年生の人もし知らないかもしれないな、まだ。3年生の人だったら知ってるかもしれないけど、もしかしたら学習してないと知らないかもしれない。水平社宣言といわれるものです。水平社は1922年、大正11年に設立されました。あの言葉の中でね、後ろの方。「我々がエタであることを誇りうるときがきたのだ」とあります。有名な文言です。あのエタっていう言葉の意味を十分知らずに、人間関係を断ち切るために使うような、そんな状況が、今現代、インターネットを中心に広がっています。この場のように学習をする場では使っていないと思うんですよ。部落

差別をなくすための学習の場としてはプラスの意味で使っていていいと思うんです。だけどね、中途半端なことで使う言葉じゃない。ましてやそれをよく知らずに中途半端な理解でケータイ、インターネットで安易に、簡単に使う言葉じゃない。そういう事件も県内では頻繁に起こっています。徳島県内では頻繁に起こっています。知らないかもしれないけど、みなさん。遠いところのことかもしれないけど。大正11年の、昔のこととと思っているかもしれないけど。けど、今この現代で、徳島県内で、当たり前のように、ネットを通じて使われて、傷ついている人がたくさんいます。そのことをしっかり分かって、今日は会場を出てほしいし、今日という1日を終わってほしいなと思っています。Aさんが、途中までは使ってなかったのよな。敢えてな。途中までは使ってなかったんだけど、ポロッと出ちゃったんよな。言っとかないと、みなさん知らずに使っちゃうかもしれないじゃない。でしょ。けど、知ってたら、こうやって「遊びで使う言葉じゃない」って分かるじゃない。初めの方で、知らないっていうことは怖いっていう話が前から出てましたけど、本当怖いですよ。知らないっていうことは。だっていつの間にか自分が差別をしてるかもしれないわけだから。その言葉を使って。だから知ることだと思います。そのことをしっかり押さえておきたかったんで、一言お話をさせてもらいました。人間関係をつくっていく、そんな時間にこの後もして行ってください。以上です。

**中山中学校 w**：さっきみたいに、〇〇みたいな言葉を何にも分からずに使っている人がいるっていうのが、小学校の時にも××っていう言葉とかを使っていることがあって、何かもっと言葉の意味を考えて、言葉を使っているかかないといけなと思いました。

**中山中学校 n**：前にいる先生の話聞いて思ったのが、人って変わるんだなって思いました。人間の長所とか短所とかでもあるんだけど、映像とか見て、前の人たちはみんな変わってるんだなって思いました。他の人もいいふうに変わってくれたらなと思いました。



**司会者**：まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで全体会午前の部を終了させていただきます。最後にもう一度拍手をお願いします。さて、このあと、昼食・休憩となります。お弁当を注文された団体はお弁当の引換を行いますので、代表者の方は1階の受付へお越してください。なお基本的にお弁当はこの場所で食べてください。また、まだ名札をつけてない方は名前が分からないので、このあと全体会場の後ろの席で作り必ずつけておいてください。それではお互い交流しながら食事をし、お昼のひとつときをお過ごしください。なお午後の部の開始時刻は13時です。遅れないように元の場所に集合してください。よろしくお願いします。それでは一旦解散してください。